



県立図書館通信

令和 5 年 9 月号

(令和 5 年 8 月末発行)



佐賀県立図書館の蔵書の中から、高校生にお薦めの本を紹介します。

新刊図書



『いい子のあくび』

高瀬 隼子/著

集英社/発行

資料コード 116449745

公私共にわたしは「いい子」。人よりもすこし先に気づくタイプ。わざとやってるんじゃないくて、いいことも、にこにこしちゃうのも、しちゃうから、しちゃうだけ。でも、歩きスマホをしてぶつかってくる人を除けてあげ続けるのは、なぜいつもわたしだけ？「割りに合わないさ」を訴える女性を描いた表題作。



『夜果つるところ』

恩田 陸/著

集英社/発行

資料コード 116446964

遊廓「墜月荘」で暮らす「私」には、三人の母がいる。ある時、「私」は館に出入りする男たちの宴会に迷い込む。なぜか彼らに近しさを感じる「私」。だがそれは、夥しい血が流れる惨劇の始まりで……。謎多き作家「飯合梓」によって執筆された、幻の一冊。『鈍色幻視行』の登場人物たちの心を捉えて離さない、美しくも惨烈な幻想譚。



『アートが変える社会と経済』

倉田 陽一郎/著

悟空出版/発行

資料コード 116447947

ブロックチェーンとコミュニティ経済のビジネスヒントがここにある！Web3 時代、アートの投資価値は上昇！NFT、メタバース上で新たな評価を生む！



『アウトプット思考』

内田 和成/著

PHP 研究所/発行

資料コード 116446683

情報が氾濫する時代。「データはたくさん集めれば集めるほどいい」と考える人は多いだろう。著者はそれを真っ向から否定し、「情報収集（インプット）は最小でいい」と主張する。本書はそんな、コンサルタントとして、そして大学教授として活躍してきた著者の知的生産の技術を紹介する1冊だ。

今年上半期に発表された

受賞作を紹介します！！

秋の夜長にゆっくり読書を楽しんでみませんか。

☆第169回芥川龍之介賞（芥川賞）

雑誌に発表された新進作家による純文学の中・短編作品のなかから、最も優秀な作品に贈られる賞です。



『ハンチバック』

市川 沙央/著

文藝春秋/発行

資料コード 116446998

「本を読むたび背骨は曲がり肺を潰し喉に孔を穿ち歩いては頭をぶつけ、私の身体は生きるために壊れてきた。」井沢釈華の背骨は、右肺を押し潰すかたちで極度に湾曲している。両親が遺したグループホームの十畳の自室から釈華は、あらゆる言葉を送り出す――。

☆2023 年本屋大賞

「本屋大賞」は、全国の書店員の投票で選ばれる賞です。



『汝、星のごとく』

風良 ゆう/著

講談社/発行

資料コード 116321316

風光明媚な瀬戸内の島に育った高校生の暁海と、自由奔放な母の恋愛に振り回され島に転校してきた櫛。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人は、惹かれ合い、すれ違い、そして成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けてきた著者が紡ぐ、ひとつではない愛の物語。

第169回直木三十五賞（直木賞）

新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本のなかから、最も優秀な作品に贈られる賞です。



『極楽征夷大將軍』

垣根 涼介/著

文藝春秋/発行

資料コード 116420852

やる気なし、使命感なし、執着なし。なぜこんな人間が天下を獲ってしまったのか？混迷する時代に、尊氏のような意志を欠いた人間が、何度も失脚の窮地に立たされながらも権力の頂点へと登り詰められたのはなぜか？幕府の祖でありながら、謎に包まれた初代将軍・足利尊氏の秘密を解き明かす歴史群像劇。



『木挽町のあだ討ち』

永井 紗耶子/著

新潮社/発行

資料コード 116444282

ある雪の降る夜に芝居小屋のすぐそばで、美しい若衆・菊之助による仇討ちがみごとに成し遂げられた。二年の後、菊之助の縁者という侍が仇討ちの顛末を知りたいと、芝居小屋を訪れるが――。現代人の心を揺さぶり勇気づける令和の革命的傑作誕生！

■編集■ 佐賀県立図書館 司書ネットワーク課 図書館・司書支援担当 (0952-24-2900)

◎この通信は県立図書館の HP にも掲載しています。蔵書検索もできます。

☞<https://www.tosyo-saga.jp/>

お問い合わせはこちらまで